

KYOGEKI 2006

雲南省京劇院 訪日公演

構成：津田忠彦

この中から3演目を上演します。

演目紹介

上演時間約2時間(休憩あり)

三岔口

「楊家将演義」より

さんちやこう



焦贊はスパイを殺して沙門島に護送される。その身を守るために密かに後を追う若者任堂恵は三叉路にある宿屋に焦贊の行き先を問うが宿の主人劉利華は知らぬ存ぜぬをとおす。実は、こちらも焦贊の危機を救おうとしていたのだ。そうとは知らずお互いの挙動を怪しんだ任堂恵と劉利華。一夜の宿を取った任堂恵の就寝後、劉利華が部屋に忍び込み、二人の間に真っ暗闇の死闘が繰り広げられる。そこに割って入ったのは焦贊、双方の誤解はやっと解けたのであった。歌舞伎で言う“だんまり”に似た雰囲気。真っ暗闇で‘見えない’という設定の二人のすれ違いがみどころ。

拾玉鐲



しゅうぎよくしよく



暖かい春の日。若い娘・孫玉奴は母の留守中、鶏を小屋に入れたり家の仕事をこなし、いすを外に出して刺繍などをして過ごしていた。そこへ若者・傅朋が通りかかり二人は一目で恋心を抱く。若者は気持ち託して玉の腕輪を落として去る。娘はすぐにその腕輪を見つけ若者の気持ちに気づいて喜び腕輪を拾った。その一部始終を見ていた劉おぼさん、何とかこの縁を取り持とうと娘に近づく。しかし娘がひたかくしにするので劉おぼさんはあの手この手で娘の気持ちを引き出そうとする。純真な恋心に染まる愛らしい娘とやきもきする劉おぼさんの愉快な展開がほのぼのと広がる。

活捉

「水滸伝」より



かつかく

宋江の妾・閻惜姣は張文遠と密通を重ねたことから宋江に殺された。閻惜姣は張文遠に未練を残したため成仏できずにいた。ある夜、閻惜姣は張文遠の家をたずね、相思相愛ならば行き先はひとつとでもいうように、張文遠を道連れにして黄泉の世界に旅立った。艶美な閻惜姣と滑稽な張文遠のユーモラスなやり取りに加え、息の合った演技術がみどころ。



盗庫銀

「白蛇伝」より



とうごぎん

白娘子(白蛇の化身)と許仙は薬屋を開業し、民に尽くそうとするが元手がなかった。銭塘県の長官が権力を笠に着て、民の富を貪り銀を溜め込んでいると聞き、青児(青蛇の化身)と五人の小妖怪を遣わしてその銀を盗ませた。倉の守り神が追いかけて来て銀を返すよう迫るが、青児は拒み、命がけで戦う。倉の守り神も応戦するが力及ばず、青児は勝利して銀を持ち帰る。今は亡き京劇の大家関肅霜が1962年に創作し、初演して以来何度も繰り返し上演され名作として内外で評価され、関派の代表作の一つとなった。

雲南省京劇院 紹介



雲南省京劇院は、首都北京より遠く離れた辺境ともいえる昆明にある。しかし、高いレベルを持ち備えた劇団であることは中国全土に知れ渡っている。それは、第二代院長であり京劇女優の大家である関肅霜が築き上げた独創的な芸術性の豊かさゆえだろう。彼女の京劇は、人を驚嘆させる確実な基礎能力と独特な魅力で個性溢れる女性像を現出させ、伝統劇目でも、その前人たちを遥かに超えたと評価され、関派が確立したとも言われた。関肅霜率いる雲南省京劇院は中国のいたるところから求められて公演を行い、中国国内にとどまらず海外公演も積極的に行った。関派の技術を買得した京劇俳優は全国に数多く存在しており、現在の武旦(立ち回りを主とする女役)の型はここにはじまっている。